

観光振興調査 特別委員会

十月十五日開催

徴古館の現地視察を 行った所見について

〔意見〕 初めて徴古館の倉庫を視察したが、今まで徴古館のお宝がいろいろ残っているという認識がなかった。学芸員も言われたが、きちんと保存して将来に残す手立てを考えることは必

要だと思つ。

〔意見〕 あのような收藏品は一たん壊れたらだめになる。收藏品を少しずつ見せるのも奥ゆかしくてよいと思つので、本当に大事にしないではいけないという思いを持ちながら徴古館と意見のやり取りなどを行つていきたい。

観光アクシヨンプラ ンのこれまでの取り 組みについて

〔質問〕 いろいろと商品開発を行っているが、旅行社社などと連携をとり、県内だけではなく県外にもつとPRを行わなければいけないと思つがどうか。

〔答弁〕 現在取り組んでいる恵比須、化け猫、河童伝説を生かした佐賀のお城下ナイトウォークツアーなどについては、県外の旅行代理店等への売り込みも行っている。また、佐賀で行っ

ていることについては、十一月に行うバルーンフェスタのPRと同時に、いろいろなメディアを通じて告知している。

十一月十一日開催

十月十五日の特別委員会において執行部より新しい取り組みとして説明のあった観光コースの「維新の雄大隈重信の足跡を訪ねるウォーキング」の観光コースを視察した。

交通政策調査 特別委員会

十一月一日開催

市北部・南部地域のバス 利用実態調査にお ける課題の抽出につ いて

〔意見〕 民間バスと市営バスでは、それぞれ高齢者対象のシルバーバス購入助成があるが、両方の助成を同時に受けることができないため、乗り継いで目的地に行く場合は、負担が大きくなる。両方で購入助成が適

用できるように検討すべき。

〔意見〕 高齢者が免許証を返上されるケースがあるが、こういう方々に対して、シルバーバス購入助成の対象年齢を引き下げるなどの対策が必要。

〔意見〕 バス停のいすについて、すべてを交通局で設置するのは財政的に難しいため、自治会等との連携を図り地元を仰ぐ必要がある。

このほか、市職員が日ごろから率先してバスを利用すること、「ノリのりきつ

今後の調査について

市中部地域調査における班編成、調査対象路線の確定等を協議。市中部地域を四ブロックに分け、各班三名の四班体制で調査を行うことを決定。

十一月十六日及び十七日 のバス利用実態調査

市中部地域バス利用実態調査を実施。実際にバスに



用・排水対策 調査特別委員会

十月十二日開催

排水対策について

〔質問〕 七月の豪雨時には、大井手堰等の操作はうまく行われたが、雨水が思うように流れない状況であったその対策は。

〔答弁〕 ネットク箇所があるという現状は認識している。そこを早急に改善すれば、スムーズに排水できると考えている。今後は新村愛敬

雨水幹線のネットク箇所解消に努めていく必要がある。

〔現地調査〕 ネットク箇所の

ある新村愛敬雨水幹線について、市役所南交差点から十間堀川雨水幹線との合流部まで現地調査を実施した。

十一月一日開催

「佐賀平野と大規模浸 水被害」

佐賀大学名誉教授でさが水ものがたり館館長の荒牧軍治氏を参考人として招いて、「佐賀平野と大規模浸

水被害」というテーマで講演いただき、意見交換を行った。

〔参考人の説明〕 災害に対しては防災から減災という考え方に変わってきた。災害に対応できる社会システムの構築、危機管理を考えたまちづくりが大切である。

〔質問〕 内水の場合は河川の事情に応じた対策が必要と思つがどうか。また、地域の防災マップをつくる必要があると考えるがどうか。

〔参考人〕 内水の問題に対してはそれぞれの地域で考えていく必要がある。また、防災マップづくりをしていく過程においては、住民の中に残っている知恵を拾い集めることが大切である。



講演のようす

視察報告

建設環境委員会 日程 5月19日(水)～21日(金)

①山梨県都留市

小水力発電のまちの「エコハウス」普及構想について

小水力発電機は現在2号機まであり、3号機の建設も予定されています。1号機では年間約100万円、2号機では約150万円の節電になるとのことです。

【所見】 急勾配の川がある地形の都留市ならではの取組みであると感じました。佐賀市においても、地理的条件が合致する地域もありますが、設置費用やメンテナンス費用を十分に検討することが必要であると思われま

バイオマスタウン構想について

一般家庭から出る生ごみ等を廃棄物系バイオマス、林産資源や農産資源を未利用バイオマスとして利用される計画です。

【所見】 佐賀市にも木材、稲わら、粉殻などは大量にあるので、それを利活用できればと思いました。

②東京都稲城市

アダプト制度（公共施設里親制度）について

この制度は、市民の皆さんに公共施設を市と協働で管理してもらう制度で、現在53団体645人が登録されています。

【所見】 公共が行う部分を市民の力を借りて実施することで、市民意識の向上につながっていると感じました。佐賀市でも長期的な視野に立って、市民意識向上に取り組むことが重要だと思われま

みどりのツリーバンク制度について

この制度は、樹木を提供したい方、譲り受けたい方、仮植えをしたい方の仲介を行うものですが、実績は少なく、あまり機能していないということでした。

【所見】 大きな樹木を動かす際には、人件費、運搬費、植え込みの費用がかかるため、補助金がないこの事業については、難しい面が多いと感じま



都留市での視察のようす



川上村での視察のようす

経済企業委員会 日程 10月6日(水)～8日(金)

①長野県川上村 「野菜王国！川上村」への官民を挙げた取り組みについて

標高1,200メートルを超える川上村は、日本一のレタス生産量を誇る高原野菜の産地であり、労働力補充対策としての外国人研修生の受け入れやブランド高級野菜としての輸出事業など、官民一体となった取り組みが行われています。

【所見】 川上村では、積雪等により冬場の農業ができないため、佐賀などとの産地間協力で連携ができるのではないかと感じました。契約栽培農家が増えているということでしたので、佐賀の野菜農家にも取り入れていければと思

②東京都立川市 自転車を生かしたまちづくりについて

立川市では、都心の交通、環境問題への対処法として、駐輪場の整備やレンタサイクル事業など、自転車を活用したまちづくりが推進されていました。特にレンタサイクル事業では、不特定多数の市民に利用してもらうため、登録制や料金制をとらずに実施されていました。

【所見】 立川市の取り組みは、公共交通機関が発達する都市部での取り組みであり、本市と同様の視点で見ることができないが、中心市街地の活性化、市営バスの利用促進、市民の健康の保持、まちの景観の保持など、いろいろな側面から自転車の活用は期待できると思

編集後記

うさぎ年の平成二十三年が明けた。現在のなんとも言えない閉塞感を打ち破る一年になってほしいというのが、多くの人の思いであろう。うさぎは大きくジャンプする。目標を定めて、大きくジャンプする一年にした

い。 仏典に「天を仰ぎ見るに月の中に兔あり」とある。「献身」の象徴であるうさぎは我が身を焼いて供養した功德で、月に上って皆に仰ぎ見られるようになったという。私たちも「献身」の心を忘れずいたいと思う。

先日、議会で行政評価に関する研究会が開催された。佐賀市議会では毎年十月に決算委員会を開催し、前年度予算の使い道のチェックを行っている。しかし、今まではその決算委員会の結果が次の予算に効果的に生かされてこなかった。そこで行政評価を導入し、議会のチェックが次の予算の中に生きるようなシステムに変えようとしている。

一昨年の「議会基本条例」策定以降、佐賀市議会も大きく変わりつつある。そのようなことをこの議会だよりで市民の皆さんにお伝えすることも、私たち広報委員会の使命ではないだろうか。今年は、その目標に向かって大きくジャンプする一年にしたい。

(野口保信)